昭和62年度
専門家健康相談巡回指導チーム
現地健康管理講座収録集（南米編）

肝炎について

昭和63年3月

JICA
700
93
PLT
LIBRARY

国際協力事業団
企画部技術者管理課

国際協力事業団
17804

はじめに

当事業団は，医療事情等が劣悪で健康管理上問題のある地に派遣されている専門家及びその扶養家族等の健康の維持・向上に寄与することを目的として，毎年「専門家健康相談巡回指導チーム」を各地域に派遣しており，昭和６２年度においては，アジア，中近東，アフリカ及び南米の各地域に合計４チームを派遣しました。

このうち，南米チームは梶原（かじわら）　哲郎（てつろう）医師（東京女子医科大学教授・同大学附属第二病院外科部長）の御参加を得て，昭和６２年１１月２９日から同年１２月２２日まで，パラグアイ，ボリヴィア，ペルー及びコロンビアの４ケ国を訪問し，専門家等の健康相談指導を行いましたが，特に専門家等の間で肝炎が問題化していたボリヴィアにおいては，同医師の御協力により「肝炎について」と題して健康管理講座を開催し，専門家等から大変な好評を博しました。

本書は，この際の健康管理講座を原則としてそのまま収録したものであり，その内容は当然のことながら，現地医療事情や現在派遣中の専門家等の健康状態に即したものとなっています。

本書が，当該国はもちろんのこと，その他の地域の派遣専門家等にとって，健康管理の一助となれば幸いです。

なお，最後になりましたが，多大の御協力をいただいた梶原先生に対し，この機会に重ねて感謝の意を表します。

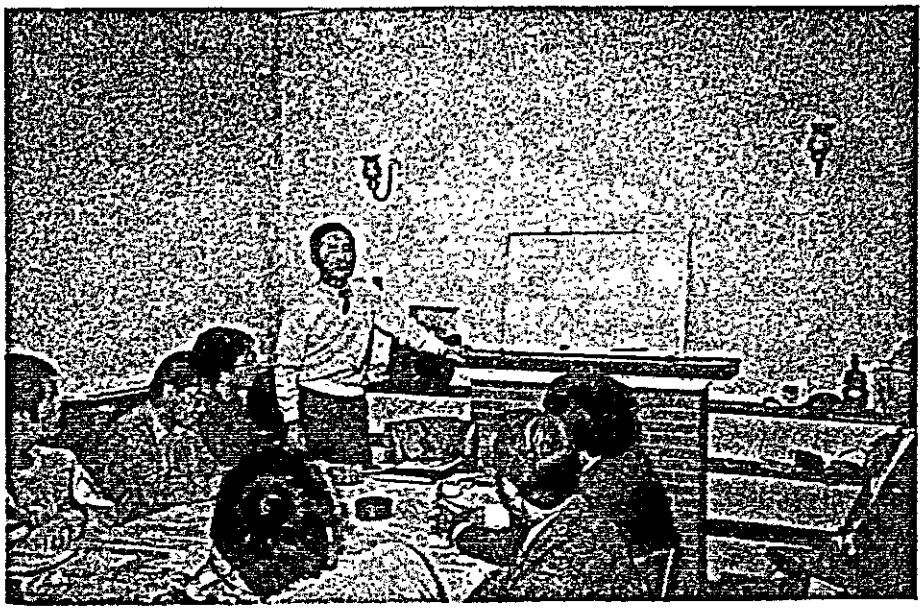
昭和６３年３月

JICA LIBRARY
1066384[7]

技術者管理課

17804

専門家等の診察を行う堀原哲郎医師。



専門家等に対し，「肝炎について」と題し，健康管理
について講義を行う同医師。

肝炎について

【司会】　最近，ボリヴィアの派遣専門家や青年海外協力隊員の方々の間で肝炎が多発していることもあり，この病気とその対策についての関心が非常に高くなっているとのことです。

そこできょうは，専門家健康相談巡回指導チームの医師として当地を訪問中の東京女子医科大学の梶原哲郎先生の方から，「肝炎について」と題しまして，皆様の健康管理についてお話しいただきたいと思います。

それでは，梶原先生，よろしくお願いします。

【梶原】　東京女子医大第二病院の外科をやっています梶原といいます。本日はご多忙のところ，お集まりいただきまして，どうもありがとうございます。

今回の健康相談巡回指導チームで一緒に回っているA君がどうしても講義のようなものをやらなくてはだめだというわけです。私は外科で，毎日手術ばかりしているので，話は余り得意ではないから懇親会の方だけ早目に済ました方がいいのではないかといったのですけれども，遠い異郷の地で奮戦しておられる方々には役に立つのだからとの，きついご命令でございます。

内容を何にするかということを考えてみたのですけれども，実際問題としまして，皆さん方が日常，特に関心の強い肝炎ということについて少しお話ししてみたらということでございました。私自身は肝臓の専門家でもありませんし，医者としての常識，断片的にあった知識をつづり合わせて，きのうから，「夜

も寝ずに」といっては変ですけれども――眠れないのはラパスという高地のせいだと思うのですが，いろいろまとめてみました。皆さん方に話が伝わりますかどうか。伝わらないようでしたら勘弁していただきたいと思います。

肝炎ということですが，基本的には皆さん方は医者，あるいは医療に携わる仕事ではないわけですから，病気を理解するにはどうしても基礎的なものが必要だと思うのです。ですから，最初に基本をお話しします。それは「肝」と「炎」です。

まず，肝臓というのは人間の体の中にあるわけですけれども，これはどういう働きをしているか，どういう機能をもっているかということを簡単にお話します。次に，「炎」というのは，「炎症」の「炎」なのですけれども，これがどういうことなのかということを簡単にご説明してから肝炎の方へ入っていきたいと思います。

肝臓は右の上腹部にある，人間の体の中では一番大きな臓器でありまして，重要な働きをしているわけです。

その働きは実にたくさんあるのですが，その1つは，糖をグリコーゲンに変えるということです。食べた砂糖や甘いものを全部グリコーゲンに変えて体の中に貯蔵する，筋肉の中に貯蔵するというような合成の働きをします。それはまた血糖の調節にも関係してきます。

次に，たんぱく質を非常によいたんぱく質に変える，もう一つの合成を行います。

また一方，脂肪を消化する胆汁というものをつくります。肝臓が悪くなりますと，これらの合成の働きがうまくいかなくなりますから，血糖値が高くなったり，たんぱく質がよいたんぱく質に変えられませんので，体の中に変なたんぱく質だけが残ります。足にむくみが出たり，おなかに腹水がたまったりするのはそのためです。胆汁は，肝臓がつくって胆のうにためられているもので，

食べ物が胃，十二指腸を通ったときに排泄され，食物の中の油を消化する働きがあります。肝臓が病気になるとこの胆汁が排泄されなかったり，これがうまくつくられなくなったりして，黄疸になります。

そのほかの主な働きとしては，解毒作用です。毒物を解かして解毒する働きがあります。肝臓が悪くなりますと，じんま疹などが起きやすくなりますけれども，解毒の作用がうまくいかなくなって，毒がそのまま残り体の中に回ってしまって，じんま疹を起こすようになるわけです。

そのほかに，ホルモンを壊します。人間は体の中でホルモンがつくられます。男性ホルモン，女性ホルモン，甲状腺ホルモン等，いろいろな腺からホルモンができるわけですけれども，肝臓はこれを壊します。肝臓が悪くなりますと，ホルモンが壊されませんので，余分なホルモンが体の中にたまって，男の人でも女のようなオッパイ——女性化乳房という形になります。

これも１つの働きですけれども，胆汁の中には血液の成分を壊したビリルビンというのがありますけれども，肝臓はビリルビンを排泄してこれは腸から再吸収され，血液の赤血球をつくるものに変えるような働きもあります。

主な働きはこういうものですけれども，挙げていきますときりがないぐらい肝臓は非常に重要な働きをしております。ですから，ひとたび肝臓が病気になったとしてもすぐだめになってしまわないように，手術で肝臓の５分の４をとって，５分の１だけ残ったとしても十分人間が生きていけるだけの働きができるようになっています。肝臓というのは非常に予備能力のある，再生能力の強い臓器であるということがいえます。

以上，肝臓はこういう重要な働きをしているのだということを，まずご理解いただきたいと思います。そして，肝臓の病気になれば，これらの働きがうまく作用しなくなることを考えていただきたいと思います。

次に，肝炎の「炎」に移ります。「炎」は炎症です。これは皆さん，よく聞

かれると思います。虫垂炎とか結膜炎，胃炎，大腸炎という「炎」ですけれど，炎症というのはどういうものかということを基本的に少し理解していただければ，肝炎についての理解が早まると思うのです。

人間の体に何か刺激が加わりますと，人間はこれに対して反応します。その反応の仕方が「炎」ということです。例えば，小さい靴をはいて長く歩きますと，まめができます。それは機械的な刺激で，赤くなってはれて水ぶくれができて痛い，それは機械的な刺激による単純な炎症なのです。これは体の１つの反応です。普通の虫だとか蚊にさされて赤くはれ上がってかゆくなる，あるいは痛くなるものもあります。これも，虫の毒に対する体の反応ですから，１つの炎症です。足のまめだとか蚊に刺されたというのは人間の体には大して影響を与えません。細菌とかウイルスが感染して起こす炎症は人間に大きな影響を与えます。例えば，一般にいう盲腸炎を例にとってみますと，大腸菌が虫垂というところの中でどんどんふえていくわけです。虫垂が化膿する，それを虫垂炎といい，これは大腸菌が原因になるわけです。結核は結核菌が原因で起こる病気です。

人間の体に菌が入りますと，それに対して人間の体が反応します。その反応が炎症というわけです。ただ大腸菌が入ったり結核菌が入ったりしただけでは，人間の抵抗力が強かったりした場合に，その炎症はそのままおさまってしまいます。ですから，一定の条件が必要になります。それは大腸菌の力，あるいは結核菌の力，あるいはウイルスの力，ヘパタイテス・ウイルスの力が強くなければなりません。この菌やウイルスが人間の体の中に入ったときに，これらの数がある程度多くないと，人間の体の中に入っても育ってふえていくことができません。数が少なければ，あるいは，菌が弱ければ，人間の体の方が菌とかウイルスに打ち勝って，炎症が起きません。ある程度の数が必要ですし，菌の力が強くなければだめです。その逆に，人間の体の方がこの菌よりも力が強け

れば菌をだめにしてしまいますので，これもまた炎症は起きないわけです。ですから，炎症を起こす菌とか原因となるものがかなりの力，かなりの数をもって人間の体の中に入ってこなければ炎症は起きないということです。菌やウイルスが弱く，数が少なくても，人の力が弱ければ炎症が起きます。

人間の体にこういう菌が入って，どんどんふえてきますと，人間の体は炎症を起こしてきます。その炎症の症状としましては，まず発熱です。熱が出るのです。虫垂炎でも何でも，炎症が起きますと熱が出ます。風邪，インフルエンザなどもインフルエンザ菌による炎症によるものです。発熱，痛み，赤くなる，はれる，動きが悪くなる（機能障害が起こる）という反応が人間の体の中に起きて，炎症が完成するわけです。

肝臓の中でウイルスが入ってふえますと，肝臓はそのために炎症を起こし，うまく働かなくなるわけです。肝炎ということの基本的な知識はこういうことになりますので，これをちょっと頭の隅に置いておかれますと，肝炎についての理解が深まっていくと思います。

それでは，いよいよ問題のA型肝炎ということになっていきます。A型肝炎は，肝炎のウイルス（ヘパタイテス・ウイルス）にAというウイルスがあるわけです。これが人間の体の中に入って肝臓に入り，肝臓の抵抗力が弱いか，ウイルスの力が強いために，どんどん肝臓の中でふえていくわけです。

ウイルスの種類によってはB型肝炎というのもあります。ヘパタイトス・ウイルスのB型です。そのほかに最近では，ノンA——Aでもないし，ノンB——Bでもないという肝炎も出ております。これはまだウイルスがみつかっていないわけです。

A型肝炎は口から入ってきます。つまり経口感染です。おそらく原因はまず水だろうと思うのですけれども，我々の子供のころにもこういう病気がありまして，ネズミのふんのついた食べ物から起こるのだというように親から教えら

れましたけれども，まず，感染の大きい原因は汚染された水にあると思います。

次に，これと同じように余り気にされていませんけれども，原因はハエ（フライ）だと思います。感染者の便から食物に行きますから，私は一番大きい原因はハエではないかと思います。ゴキブリ，ネズミも，いるかどうかはわかりませんけれども，原因になると思います。肝炎にかかった方のふん便とか尿，あるいは液体から媒介体により食べ物にウイルスが伝達され，食べ物を口にすることによって肝炎が起こるわけです。

ウイルスが人間の体の中に入りますと，葛藤が起きます。これが入っただけでは炎症は起きないわけですけれども，人間の体の中でかなりの葛藤が起きてきます。ある長さの葛藤の期間のことを潜伏期といいます。格闘の期間が非常に短い場合は，人間の体の抵抗力の方が弱かったり，ウイルスの方が強いということで，かなり激しい症状が起きてきます。

症状としましては，先ほど炎症のところでお話ししましたように，まず発熱です。A型肝炎にかかった青年協力隊員の方がここに出席されていますが，彼は39度か，40度近く出たといいます。ひどい風邪かなあというような発熱です。熱が出ますと，どうしてもだるい——倦怠感。熱が出ますと，当然食欲がなくなる——食欲不振。肝臓のところでどんどん闘っていますから，肝臓のあたり，上腹部の痛み——疼痛。重いような痛みもありますし，鈍痛——ドッキンドッキンとするような痛みもありますし，何か上腹部が重たいなあという感じもありますし，この症状は人によっていろいろあります。

ひどい人になりますと，吐き気があり嘔吐します。かなり大量に吐いたり下痢する人もあります。

これが２～３日続きまして，風邪かなということで熱冷ましの薬とか抗生物質をもらって２～３日しますと，その後に黄疸が出てきます。何となく手のひらが黄色くなるとか，目玉の白いところに黄色みが出てきます。熱もなく，何

となくだるい，食欲がない，何かわからないうちに，これらが3日ぐらい続いた後に黄疸が出て，肝炎だということがわかる場合もあります。

A型肝炎の場合は，熱，吐き気，嘔吐，下痢，食欲不振が，1週間から10日ぐらい続きますと，あとは，少しだるいなという感じが残ったり，黄疸がなかなかとれなかったり，おなかの上の方が少し重いなという感じが残るだけで，無理をすれば仕事もできるようになるわけです。一般的には2週間から3週間，人によっては4週間で治ってしまいます。これは一般的な彼のような元気な若者が肝炎にかかった場合の症状です。

病気というのはすべてそうですけれども，非常に軽いものから重症のものまであります。肝炎の最もひどいものに激症肝炎というのがあります。これは朝方，何か体がだるいといっているうちに少し熱が出て，昼ごろになりますと，だんだん，いっていることがおかしいとか，あいつ，何か変だぞというような状態になって，夕方には意識が完全になくなって，翌日のうちには死んでしまうというようなものです。これは余り評判になりませんけれども，激症肝炎と診断するのがなかなか難しいのです。それは病気の進行が非常に早いからです。朝来て，翌日の朝にはもう死んでしまいますので，原因が何かわからないということがあるからです。

B型肝炎ではかなり神経質になるのですけれども，A型肝炎でこの激症肝炎は問題にされませんが，ごくまれにはあるのではないかと思います。

〔質問〕　ある国で，1人，専門家が亡くなられました。飛行機で運ぶ暇もなくA型肝炎ということでした。

〔梶原〕　恐らくそうだと思います。肝臓に興味のある病院や，この重症肝炎の患者さんを1人でも経験している先生ですと，これはおかしいと，昼ごろにすぐ気がつき，うまくいけば血漿交換とか救急の治療を行えば間に合うことがあるかもしれませんが，大慌てに慌てても，まず，これになると治癒すること

は無理です。もちろん，これは非常に少ないのです。 1,000対1ぐらいの――もっと少ないかもしれませんが――割合ではないかと思うのです。

これとは反対にもっとも軽い肝炎もあるわけです。これはいつかかったかわからない。ただ，後から検査してみますと，抗体が出ているから肝炎にかかったということであります。このように軽い肝炎が一番多いかもしれません。どんな病気でも非常に重いのから非常に軽いのがあるということ，ただ，病気というのは絶えず怖いものを頭に置いておかれた方がいいのではないかと思います。

では，この肝炎を何で診断をつけるかということになりますと，今いいましたこういう症状，黄疸が出てきたということで，A型肝炎の場合は大部分が症状だけで診断がつきます。しかし，この中で一番大切なのは，肝臓の酵素でありますトランスアミナーゼという血液の中の酵素を測定する検査が必要になります。これはGOT・GPTという肝臓の酵素です。

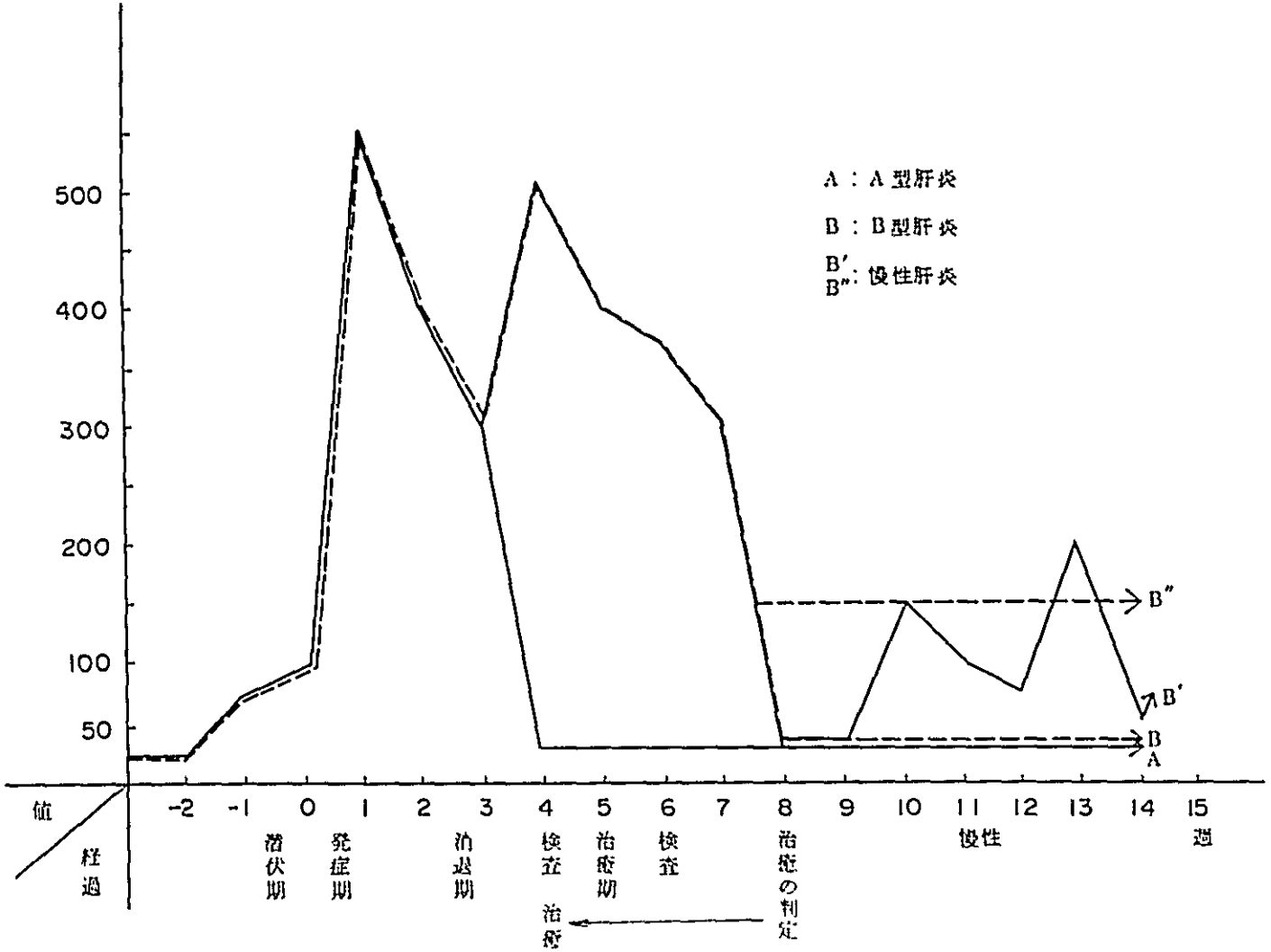
【質問】　1つ質問します。急性肝炎とよくいわれますけれども，それはどちらのタイプなのですか。

【梶原】　検査の話から急性，慢性の話に移っていきますので，もう少し待ってください。

肝臓の細胞がウイルスにやられますと，肝細胞は死亡したり弱ったりします。そうすると，肝臓の細胞から血液の中に酵素が流れ出まして，GOT・GPTという酵素がふえてくるわけです。これはトランスアミナーゼという酵素です。普通の人の値では大体50以下とお考えになっていればよろしいと思います。これ以下が正常なわけです。

普通の人は50以下なわけですけれども，潜伏期――先ほど申し上げましたように，かかってから発症するまでの間は約1週間ぐらいですが，図Aのとおり，まず 100ぐらいまで上ります。その後に急にその値は上昇します。ひどいとき

肝炎におけるGOT，GPTの変化



になりますと，500とか 1,000とかいう値に上がって，発症の時期に最高の値になります。そして，グーッと上がりまして，GOT・GPTは幾分減少しながら大体1ヵ月でA型肝炎の場合は正常値に戻ります。GOT・GPTが正常に戻ってから2週間おきに検査します。この値が2回とも50以下ですと，このA型肝炎はここで治癒したということになるわけです。

ですが，A型肝炎にかかった青年協力隊員の彼の場合は，非常に肝臓が強いのかどうか知りませんけれども，最初からこれは全然上がっていません。非常に珍しいのですが，あるいは予防注射として用いたγーグロブリンのせいではないかと思われます。

こういうことで発症して治ってしまうのが，A型肝炎のGOT・GPTの検査の値の変化になります。ほかの肝臓の機能の検査は何十種類，何百種類もありますけれども，この肝炎の場合に注目するのは，大体このGOT・GPTだけでよろしいかと思います。

皆さん方は，自分のGOT・GPTを覚えておいてください。肝炎の場合，医者は患者さんのGOT・GPTはどれぐらいの値だったかというのを聞きたいですし，また治った場合には，何日ぐらいでその値がどれぐらいになって治ったかというのを聞きたいので，その値は記憶にとどめておいた方がいいと思います。

A型肝炎の場合は，先ほど申し上げましたように90%はこのタイプです。このタイプはいうならば急性肝炎になります。急性に起きてきて，治ってしまうから急性です。

B型肝炎になりましても，大体はこういうGOT・GPTの値の変化の形で治るのですけれども，人によっては，最高値が 500になって，次の検査で 200ぐらいになり，だんだん下がってきたから，この次あたりは恐らく50以下になっているだろうから，あと1週間ぐらいして検査したら恐らく正常だろうから

退院していいよと説明します。その予想した日に検査してみますと，GOT・GPTがまたグーッと上がる。ここからGOT・GPTが正常値に戻るまでにまた1ヵ月ぐらいかかるという変化をします（図B）。

これをラクダの背中にたとえて，「あなたは入院の期間が一こぶラクダでよかったですね」という説明をして終わる方もありますし，「もう1ヵ月入院していなくてはだめですよ。あなたのGOT・GPTは二こぶラクダですね」といって治る人もいます。これはまだ急性です。

これからが問題になるのですけれども，先ほども申し上げましたように，肝炎の場合は少しだるいとか，少し食欲がないとか，上腹部のあたりに少し重いという感じがあるだけで症状がありませんので，GOT・GPTがまだ正常値ではないのに，あるいは正常値に戻ったばかりなのに，日本人は働きバチそのものですから，仕事に出たいとか，重要なものがありますといって退院し働きますと，GOT・GPTは上昇してきたり，上ったり下ったりの波打ち現象を起こしてきます（図B′）。また，そのままずうっと平行して，なかなか下がらないこともあります（図B″）。このようになりますと，一たん下がった時期は急性期といいますけれども，この後は慢性期に移っていくわけです。これを慢性肝炎といいます。

先ほどいいましたように，A型肝炎から慢性肝炎に移る方はないとはいえませんけれども，非常に少ないと考えます。けれども，B型肝炎の場合は，これに移行するのが15%ぐらいはあると考えないといけません。

A型肝炎にかかった彼にもちょっと話しましたけれども，病気というのは痛いとか苦しいということがあれば，もちろん，人間はそれを治そうと思って努力するわけですけれども，症状が何もない場合に，それを治すのもまた重要な治療の1つなのです。それには精神的な治療も加わるわけです。症状がある時期だけを肝炎の病気だと思われては非常に困るわけです。ですから，彼の上司

の所長さんかだれか知りませんけれども，ここで，「おまえ，もう治ったのだから早く働け」というようでは……（笑声）。

彼のＧＯＴ・ＧＰＴの変化を検討しますと，発症の時期も症状のとれたときも正常値ですけれども，彼の体を考えてあげるのであれば，ある期間，最低２ヵ月は養生させるのが，我々医者の方とすれば常識になっています。

肝炎の治療になりますけれども，治療は医者の側の問題になりますが，完全な治療法はありません。もちろん，発症の時期は症状が強く治療の必要がありますが，その後の無症状のときは，これは怠け病と考えて構わないと思います。できるだけブラブラしている。仕事をしない。朝，御飯を食べたら横になる。少しぐらい散歩して昼飯を食べたら，また横になる。そのような生活です。怠け者になるよりほか方法がありません。補液ですとか肝庇護剤，ビタミン剤の投与，ブドウ糖等，いろいろの方法がありますけれども，それを与えることによってかえって肝臓に負担がかかるという説もありまして，まだ治療法が確立しておりません。特殊な治療法はありません。

ですから，治るためには怠け者になっていただくよりほか方法がないと思います。

予防法としましては，今，お話が出ましたγ－グロブリンの投与で，３ヵ月ないしは４ヵ月ぐらいは有効といわれていますので，年に３回から４回は必要になるかとも思います。

以上，私の断片的な肝炎に対する考えをご説明いたしました。ご清聴を感謝いたします。

〔質疑応答〕

〔司会〕　今，肝炎についての先生のお話がありましたけれども，ご質問等がありましたら，何でも結構ですから，この機会にしていただきたいと思います。

〔質問〕　82年から85年まで４年間，ＯＥＣＦの仕事でペニ州の道路建設に来ていたのですけれども，ジャングル地帯で，電力も水もないところで４月から12月。１，２，３月は雨期なので，毎年日本に帰っていたのですけれども，帰って必ず検査するのですが，雑菌が多いと各検査ごとにいわれるのです。

〔梶原〕　検査を受けられて，何に雑菌が多いということですか。

〔質問〕　血液とか尿とか。今のところ，自覚症状は何もないのですけれども，いつも検査をするたびにそのようにいわれるもので，余り気持ちがよくないものですから，その辺のところ，どうなのかと思いまして……。

〔梶原〕　血液の中に雑菌がいるのは信じられません。人間の口の中にはスピロヘータとか，いろいろなのがいるのです。おしりから大腸にかけては，大腸菌を初めとしていろいろな菌が入っているわけです。人間の体と雑菌と仲よく生きているわけです。仲よく生きている分には別にどうということはないのです。ですから，雑菌が多かろうが少なかろうが問題になりません。血液を調べますと，人によっては，ウイルスそのものを肝臓の中にもって一生生き続ける人もいるわけです。それはウイルスのキャリアというわけですけれども，先ほどの肝炎になった彼は日本にすぐ帰るそうですから帰ったらすぐ検査をしなくてはだめなのですけれども，Ｂ型のキャリアというのはかなり多いのです。そういう人から血液をもらったりとか，血液製剤がそこからつくられるとか，エイズでもそうですけれども，そういうことから感染します。

あなたの場合は，雑菌――「菌」ですから，いっぱいいても別に結構なことだと思います。

〔質問〕　先ほど先生がおっしゃいました水ですが，水道の水は全然だめだし，

川の水を一応煮沸しているとはいうのですけれども，暑いところから帰ってくるとそんなことは構っていられないので，どうしても飲んでしまうわけです。

【梶原】　体が必要としている場合は，飲まないよりは飲んだ方がいいです。胃の酸度というのはかなり高うございますから，かなりの雑菌は酸でやられてしまうと思うのです。

【質問】　ハエなのですけれども，最近は余りいなくなったのですけれども，最初のころは，こういう机が真っ黒になるぐらいいたのです。そのころは1週間ぐらい，余り食事はできなかったのです，

【梶原】　それに耐え得るような食欲と精神力がないと，皆様方がご苦労なさっている現場では耐えられないと思うのです。ハエもおかずにして食べるぐらいの気力がないと……。余り神経質になられると今の現場では仕事はなかなかできないと思うのです。そこは我々医者の清潔・不潔の考えよりみますと，皆さん方のご苦労はものすごいものだと思います。東京でうまいものばかり食べて机上の空論をたたかわせている仕事は，たかがしれていると思います。ですから，皆さん方，ますますご努力していただきたいと思います。

【質問】　最初の1年目，2年目は，やはりしょっちゅう下痢に悩まされまして，体重も8Kgぐらい減りましたけれども，3年目からはよくなりまして，逆に太ってきました。

【質問】　以前，B型肝炎になりまして，日本を出るときに定期的に検査をしてくださいといわれていたのです。協力隊の半年に1回ごとの健康診断があって，そのときに調べてもらうだけだったのですが，半年ぐらい前なのですけれども，肝臓の方のGOTとGPTが正常範囲から外れて，ちょっと高かったのです。倍ぐらいなのです。B型なのですが，先ほど15%ぐらい慢性肝炎になる可能性があるといわれましたね。その可能性は十分あるのですか。

【梶原】　あなたの場合のGOT・GPT経過を追って検討してみますと，注

意する必要はあるけれども，現在，慢性肝炎であるとはいえないと思います。ですから，半年に１回の検査の積み重ねで十分だと思います。慢性肝炎に対する心配はする必要はないけれども，用心はしておいた方がいいと思います。心配と用心とは別です。

心配ばかりしていては人間は生きていけないと思います。おれはこういうところでこれだけ用心しているのだから，この病気に対しては絶対大丈夫だ。私は１年に２回，６ヵ月ごとに検査するのだ。だから，慢性肝炎については大丈夫だというように割り切ってください。定期的に検査をして用心する。それでいいと思います。

〔質問〕　私は１歳ちょっとの娘のはしかの予防注射を今，考えているのですが，エイズの件でこちらの薬は使わない方がよろしいですか。

〔梶原〕　使われない方がいいと思います。日本のエイズ感染者はほとんどが米国からの血液製剤によるものです。エイズの感染率はブラジルはかなり高うございます。

〔質問〕　ただいま，A型肝炎が水，ハエ，ゴキブリ，ネズミなどによる経口感染で，B型肝炎の場合は血液とおっしゃっていましたが，感染する場合，どういう経路をたどるのでしょうか。

〔梶原〕　血液製剤が１つです。そのほかに注射針とか注射薬の投与時に感染します。ある人がB型肝炎になったとします。隣のベッドに入院していると，B型肝炎のウイルスはいっぱいあるわけです。こちらにもこちらにもくっついているわけです。

〔質問〕　皮膚にもですか。

〔梶原〕　そう。ですから，完全に消毒しないで注射したりしますと，そこからもうつってくる可能性があるのです。

〔質問〕　蚊などもうつすのですか。

〔梶原〕　それはないと思います。蚊は媒介しませんから。

〔質問〕　血液だけですか。

〔梶原〕　血液の中にウイルスが入っているわけです。血液製剤ももちろんあります。注射とか，そういうのもあります。注射針とか注射器です。

〔質問〕　傷口もですか。

〔梶原〕　もちろん，傷口もあると思います。

私の考えでは，B型肝炎も経口感染するのではないかとは一応予想はしていますけれども，私はそこを調べる専門家ではありませんので，ただ頭の中での想像です。医者の仲間は必ず職業病といっていいほどB型肝炎にかかるのです。私などは肝臓が強いせいか発症はしなかったのですけれども，いつの間にか抗体ができているのです。職業病だとしても，実際に我々が自分に注射するわけではなくて，患者さんをみるだけなわけですけれども，やはり感染してしまうのです。ですから，私はB型肝炎も経口感染があるのではないかと思います。それは私の考えの中の問題です。

〔質問〕　予防法はあっても治療法はないとおっしゃったですけれども，まだ全くないのですか。ウイルスまでわかっているわけですね。それを殺す抗生物質とか何か……。

〔梶原〕　ウイルスを殺す抗生物質は今はまだできていません。ですから，将来，できるならば免疫学的な方でウイルスに対する血清ですとか，そういうのからのアプローチが必要になってくるのではないかと思います。

〔質問〕　B型肝炎のウイルスは唾液の中にもあるのでしょうか。

〔梶原〕　唾液の中にはないと思いますが，最近の報告で存在するという人もいます。

〔質問〕　エイズは軽いキスではうつらないと聞いているのですけれども，B型肝炎も軽いキスだとうつらないのでしょうか。

〔梶原〕　うつらないと思います。

〔質問〕　傷口があったらうつるのでしょうか。

〔梶原〕　そうなのです。ですから，例えば，女性がエイズだとしますね。男性と交渉をもった際，男性の方の性器に傷がついていたりしている場合には感染します。

〔質問〕　自分は今，きのうみてもらったとおり十二指腸潰瘍なのですけれども，それはどのぐらい注意が必要なのでしょうか。できたら，１ヵ月近く胃を休めたいと考えているのですけれども，先生のご判断をお聞きします。

〔梶原〕　十二指腸潰瘍をもっている人は，休んだところで仕事のことが気になって，胃や十二指腸は休まらないのではないかと思います。そこのところは非常に難しいのです。もちろん，ひどい活動性の潰瘍の場合は入院して治療が必要ですが，あなたの場合には，さきの健康指導のときにかなり詳しく話したと思うのですけれども，一たん仕事からちょっと離れてみるのも手かと思います。そんなに長く離れてしまいますと，離れただけで，あの仕事はどうなっているのだろうかとか，上の人はどのように考えているのだろうかとか，同僚はおれがいなくて大丈夫なのかとか，そういうのが気になって，今度はそこの環境がストレスになって十二指腸潰瘍を悪くしてしまうと思うのです。だから，あなたの場合は，ちょっとだけ，ほんの３日くらいの方がいいと思うのです。かなりいい薬を差し上げましたから，特効薬中の特効薬ですから，あれをお飲みになれば十二指腸潰瘍恐るるに足りないと思います。

〔質問〕　私は以前Ａ型肝炎にかかったのです。

〔梶原〕　どのぐらい前ですか。

〔質問〕　入院したのが10月20日ぐらいです。一応禁酒といわれたのですけれども，大体どれぐらいを目安にしておいたらよろしいでしょうか。

〔梶原〕　そろそろいいと思います。あなたは若いから２ヵ月でいいのではな

いかと思いますけれども，普通の人でしたら３ヵ月から６ヵ月は禁酒した方がいいと思います。

これは全然別なのですけれども，アルコール性肝炎というのもあります。アルコールというウイルスによる炎症であって，アルコール性肝炎というのはアルコールによる炎症ですから，飲み過ぎはいけないのです。欧米の場合はほとんどがアルコール性の肝炎から肝硬変，肝ガンなのです。日本は，Ｂ型肝炎から慢性肝炎になって肝硬変，肝ガン。大体５年で肝硬変が完成して，５年ぐらいで肝ガンができて死んでしまう10年の命なのです。だから，アルコールもばかにはできないのです。

〔質問〕　それは大量の酒を１回に飲むとなるとか，ちょっとでもずうっと長く飲んでいるとなるとかということはありますか。

〔梶原〕　ビールを３本，30年間毎日飲み続けると肝硬変になります。ですから，休肝日を週３回置きなさいというのが肝炎の専門家のお話です。こちらの皆さん方には余り関係ないかもしれませんけれども，今，週５日制などといっています。２日は休肝日を置いた方がいいのではないかと。だんだん進んでいって，全然飲まない方がいいのではないかということになるかもしれません。

休みを置けば，30年で肝ガンになるところが，週１日休みを置くごとに１年ぐらいずつ延びていきます。

〔司会〕　それでは，質問の方もこれくらいにしてよろしいでしょうか。

梶原先生，非常に貴重な話をどうもありがとうございました。皆様におかれましては，きょうの先生のお話を参考にされながら，今後とも健康管理に努めていただければ幸いです。

きょうはどうもご苦労さまでした。

JICA